

2022年秋年末闘争・組織拡大

CTGの建交労道本部闘争速報

2022年11月7日/第7号

〒060-0909 札幌市東区北9条  
東1丁目北海道労働センター2F  
TEL011-711-7377  
FAX011-711-7388  
e-mail/ctg.hokkaido@gmail.com

## 道本部労災職業病部会第20回総会 創意工夫しながら新規認定のとりくみを

11月2日、道本部労災職業病部会第20回総会が開かれ、部会役員・代議員など6支部18人（オンライン参加をふくむ）が参加しました。深浦義彦部会長が「今年の総会の大きな課題は、来年4月からの振動障害の第13次適正給付計画に対するとりくみや新しく作られた建設アスベスト給付金のとりくみ、コロナ禍や各地で医療機関との関係で困難が生じている中で創意工夫しながら新規認定にとりくむことなどです」とあいさつし、道本部の森国委員長は「物価高が続く中で労災の休業補償は上がらない。消費税減税など生活を守るたたかい、政治を変えることが重要だ。トンネルじん肺基金の実現のために新しい国会議員の賛同運動を強めよう」と訴えました。提案された議案にもとづいて討論がおこなわれ、「100件の新規認定」など新年度運動方針を決定しました。

総会では、深浦部会長（函館）、中井副部会長（足寄）、前田副部会長（札幌労災）、渡辺副部会長（函館）、福井事務局長（十勝建設）などの新役員を選出（すべて再任）しました。

## 17年間で2,696件の労災認定

道本部労災職業病部会は2005年7月から2022年6月まで17年間の全道の新規労災認定の数字をまとめました。総数は2,696件で、内訳は振動障害・1,089件、じん肺・530件、じん肺遺族補償・229件、アスベスト疾患・46件、アスベスト遺族補償・36件、騒音性難聴・730件、その他・36件です。年間の認定件数を見ると2007年7月～2008年6月の231件が最高で、このほかの年も122～177件となっています。支部ごとでみると、札幌労災支部が831件、函館支部が807件、釧路支部が720件などです。

### JR北海道「安全に関する労使合同会議」

10月26日にJR北海道の「第35回安全に関する労使合同会議」がおこなわれ、5月2日に新札幌駅で発生した特急列車の最後尾車両・後部乗降口がホームから外れた状態で開扉した事象について会社がおこなった防止対策の説明がありました。通常は4両編成で運行している列車が当日は増結により車両数が7両に変更されているのに、運転士が通常の停止位置に停車させ、車掌も通常での位置確認のうえ開扉してしまった事象です。最悪の場合には乗降口から乗客が落下して死傷事故につながる重大な問題でした。会社がおこなった設備対策は、列車停止位置の変更や編成両数を確認するためにホーム端に看板を設置、車掌がドアを開扉する前に停止位置が正しいことを確認できる表示の設置、駅到着前に編成両数を再確認するためのツール作成など「わかりやすく、気付きやすく」するためのものです。会社からの説明を受けて感じられたことは「事象が発生してからの対応になってしまうことの要因はどこにあるのか」でした。今回のような問題は職場に人的余裕と時間的余裕があれば、小集団活動などで業務改善点を出し合うことや、提案制度を進める中で安全対策について社員から広く発想を募ることで、未然に防ぐことができた問題と考えられ、余裕さえあれば同様の対策はもっと早いうちから実施することが可能だったと思われます。